

病原因子検査学特論Ⅱ (Advance of Pathogenic Laboratory Ⅱ)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
井上 孝	1年次後期	選択	2	30	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要(内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	病原因子検査学特論Ⅱでは、エルシニア菌の産生する耐熱性下痢原因毒素について紹介をする。本講義ではエルシニア菌を含む細菌が産生する蛋白毒素の生物学的・生化学的性状の違いを遺伝子レベルで学修する。課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。							
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」及び④「臨床検査技師の役割を探究し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。							
到達目標(履修者が到達すべき目標)	1. 細菌が産生する毒素について理解できる。 2. エルシニア菌が産生する毒素について理解できる。 3. 蛋白毒素の精製方法と評価について理解できる。							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/教科書の関連部分をあらかじめ読んでおくこと(各30分) 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/教員が配布する資料で復習を行うこと。(各30分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回	細菌性食中毒の分類(講義)					井上 孝	
	第2回	細菌性食中毒の動向(講義)					井上 孝	
	第3回	毒素原生大腸菌の産生する下痢原因毒素(講義)					井上 孝	
	第4回	毒素原生大腸菌の産生する下痢原因毒素(ST)(講義)					井上 孝	
	第5回	毒素原生大腸菌の産生する下痢原因毒素(LT)(講義)					井上 孝	
	第6回	コレラ菌の産生する下痢原因毒素(LT)(講義)					井上 孝	
	第7回	エルシニア菌の産生する下痢原因毒素(ST)1(ゼミ)					井上 孝	
	第8回	エルシニア菌の産生する下痢原因毒素(ST)2(ゼミ)					井上 孝	
	第9回	エルシニア菌の産生する下痢原因毒素(ST)3(ゼミ)					井上 孝	
	第10回	エルシニア菌の産生する下痢原因毒素(ST)4(ゼミ)					井上 孝	
	第11回	下痢原因毒素(ST)の生化学的性状(講義)					井上 孝	
	第12回	下痢原因毒素(ST)の生物学的性状(講義)					井上 孝	
	第13回	下痢原因毒素(ST)の精製方法1(ゼミ)					井上 孝	
	第14回	下痢原因毒素(ST)の精製方法1(ゼミ)					井上 孝	
	第15回	下痢原因毒素(ST)の評価方法(ゼミ)					井上 孝	
評価方法 評価基準	授業参加態度、プレゼンテーション、レポートなどを合わせて総合的に評価する(100%)							
教科書	なし			参考書等			なし	
学生への メッセージ	食中毒の分類と毒素の種類及び毒素の人体への影響などについて臨床検査技師として必要な知識を教授します。							